

食品プロジェクトの紹介

1 2005年1月に食品プロジェクトを立ち上げ、食品のカドミウム汚染・水銀汚染問題に取り組むことになりました。その理由は国際機関で検討されている米のカドミウム残留基準が、日本の主張により原案より緩やかなものになりそうだという動き及び、魚介類の水銀汚染が話題になっていることに対し、国民会議としても取り組む必要があるという認識からでした。

2 メンバー各自で担当を決めて、カドミウム汚染の実態、関係論文、規制内容等を調査し、7月には、元東京都健康安全センターの小野塚春吉氏の講演会「日本の米は大丈夫?!」を開催しました。

3 10月には国民会議総会記念として、東京大学吉永淳氏による「子どもの健康、発達と重金属」と題する講演会を開催しました。

4 同時に今後食品プロジェクトは、食品問題を専門に扱っている食の安全・監視市民委員会と共同で取り組むことを決定しました。

5 2006年12月には、河野武平氏による「国際基準と日本の食生活から見たカドミウムの基準のあり方」と題する講演会を開催しました。

6 重金属による人体汚染の調査が必要と考え、2007年11月～2008年2月まで、母子78組、未婚の若い女性33人、その他希望者22人の毛髪中重金属の分析調査を実施しました。その結果、魚食の機会が多い母子の毛髪中水銀濃度が高い傾向が見られました。また同時に実施したアンケートを分析し、ミネラルウォーターに含まれる重金属の分析等も実施しましたが、政策提言ができるほどの確実な考察はできませんでした。

7 2009年9月、国民会議として「有害重金属はどこに?」と題するブックレットを発行しました。

8 その後はネオニコチノイド系殺虫剤汚染問題に取り組んだが、この活動は、食品プロジェクトを離れ、国民会議全体としての取り組みに発展しました。(詳しくはネオニコ・プロジェクトをご覧ください。)

9 厚生労働省が、フルジオキシソニルという殺菌剤(農薬)を、食品添加物に指定することになり、消費者庁に表示案策定の諮問をしたことをきっかけに、反農薬東京グループ等他の団体と合同で、消費者庁に対し、単に表示案を策定するだけでなく、消費者の利益に反する添加物指定、農薬残留基準設定につき、消費者の立場から意見を述べるべきであるとの申し入れを行いました。この問題は現在も取組中です。

文責：神山美智子